

144MHz

JR3PIO 関森 源治 Genji Sekimori

2メートル・バンドと呼ばれ親しまれている144MHz。普段は近場のQSOがメインですが、Eスポと言われる異常伝搬により、ときとして全国的なQSOが可能になる魅力も。普段はローカル・ラグチューを楽しむ、EスポでDX交信も楽しめる入門バンドの一つです。

7月21～22日にかけて行われた、144MHz全国移動通信に、台湾に出かけて現地から参加しました。台湾グループとは昨年、東京で会って以来の再会でした。今回、ともに台湾の地で、144MHzの運用を試みました。

台湾へ向かう

7月21日朝、関西国際空港を出

発、約3時間のフライトで桃園国際空港に着陸。高速道路をバスで走り台北市中心部まで約1時間で到着。BV2NT 李さんの車に乗り、現地メンバーとBU2AQ 呉オーナー宅に向かいました。

現地は台北市の東側山地にある新店市の高級別荘地にあり、警備も厳重で一般人は立ち入り禁止になっていました。



BU2AQ 呉さんのシャックと144MHzの設備(標高500m)
使用リグはIC-275とIC-7000。アンテナは15m高タワーに15エレ×4バラ、10Dの同軸ケーブルを使用している。なお、出力は50Wだった

JR6RMZ 古堅さんからのコメント

台湾との交信も無事終えることができました。ほっとしています。

北向けとは別に、南向けのシャックは浦添市南向けにひらけた山の上にあります。海拔は100m前後ですが、海が見えており視界360度です。台湾、沖縄の距離は700km弱だと思いますが、信号はRS59++でした。

台湾から日本本土へのビーム角と、沖縄へのビーム角には90度近

い差があり、頻繁なビーム修正が必要なのだと思います。7月21日1800に、BV2/JR3PIOの信号が入っていましたが、RS41～51でした。こちらから呼んでも届かない状況でした。ビーム方向の問題は大きいです。

沖縄と台湾は距離的に近く、スケジュールQSOはいつでも可能でしょう。今回はメイン・シャックからではなかったためGPアンテナでした。しかし、台湾-日本の貴重なワンQSOになりました。

de JR6RMZ 古堅 政尚

悪コンディションでJA局を呼ぶが

挨拶もそこそこに、144MHz SSBの運用を開始しました。

BV4KI 易さんが、144.110MHzで午前日本向けのコンディションをチェックしてくれていたのですが、どうやら状態は良くないようでした。

メンバー3人が交代しつつ、切れ目なく144.230MHzで「CQ JAPAN」を呼び続けます。気温37℃の中、厳しい運用となりました。時々、CWでもCQを出しますが、いかんせんコンディションはNG気味です。

沖縄のJR6RMZとQSO

翌22日朝に、JR6RMZ 古堅さん(沖縄・浦添市)と21MHzで連絡を取ることができました。昼前になって、JR6RMZのコールサインがかすかに入感したため、ただちにビーム方向を修正し、RS59+で聞こえたときは、正直ホッとしました。

しかし、古堅さんによれば、台風で空中線を降ろしたと知り、マサカの思いでした。それでもGPでこれほど強く入感するとは思いませんでした。これが台湾と沖縄本土との初めての交信記録であり、貴重な収穫でした。

台湾グループ各局の暖かい対応、接待に心より厚くお礼申し上げます。

de JR3PIO 関森 源治